

高温に対応した 水稲の栽培管理について

8月13日（木）気象庁発表の1か月予報によると、期間の前半は気温がかなり高くなる見込み（週別の気温は1週目は高い確率80%、2週目は70%、3～4週目は50%）です。気温が高いと水稲の登熟が早く進行し、刈り遅れ等による品質低下が懸念されますので、以下の対策を必ず実施しましょう。

1 水稲の生育状況(農技研玉井試験場)

作 型	生 育 状 況
早期栽培	5月1日植えの「コシヒカリ」では、稈長はやや高く、穂長はやや短くなりました。出穂期は7月26日で平年並みでした。
早植栽培	5月20日植えの「彩のかがやき」では、草丈はやや高く、茎数はやや少なくなりました。出穂期は8月13日で平年並みでした。
普通期栽培	6月25日植えの「彩のきずな」では草丈はほぼ平年並みですが、茎数はやや少なくなりました。出穂期は8月17日でほぼ平年並みでした。

2 今後の技術対策

(1) 水管理

- ✓ 出穂後20日間が高温障害発生の危険時期です。
- ✓ 出穂期前後1週間は深水管理とし、その後は間断かん水を行い、根の活力維持に努めましょう。
- ✓ 間断かん水は3～4日おきに入落水を繰り返します。中干しの不十分なほ場では、排水口を開けて極力落水し、2～3日田面を露出させましょう。ただし大きなひびが入るような落水は避けてください。
- ✓ 早期落水は、品質低下を助長します。落水は出穂後30日経過してから行いましょう。
- ✓ 落水時でも高温で乾燥した風の吹くときは、走水程度にかん水しましょう。

(2) 適期刈取り

- ✓ 刈り遅れは胴割米や茶米の発生が増加し、品質を低下させます。
- ✓ 高温条件下での登熟は、刈取適期が前進するので、表-1の目安よりも2～3日早刈りするよう心掛けましょう。
- ✓ ライスセンター等の稼働開始を生育に合わせて早めた計画を推進しましょう。

表-1 品種別収穫適期の目安（奨励品種特性表より）

品種名		登熟積算気温	出穂後日数
彩のきずな	早植	900～1200℃	35～48日
	普通	900～1100℃	38～48日
キヌヒカリ	早植	980～1180℃	37～45日
	普通	920～1050℃	37～45日
彩のかがやき	早植	910～1110℃	35～44日
	普通	1010～1250℃	44～58日

こまめな水分補給と朝夕の涼しい時間での作業を心掛け、
熱中症を予防しましょう！

